

本調査研究はモーターボート競走公益資金
による財団法人船舶振興会の補助金を受けて
実施したものです。

九州・山口の港湾における物流機能 の充実に関する調査研究

－ 中間報告書 －

平成8年3月

財団法人 九州海運振興センター

は し が き

本報告書は、当センターが『財団法人 日本船舶振興会』の平成7年度から2カ年にわたる補助事業として実施した「九州・山口の港湾における物流機能の充実に関する調査研究」の平成7年度研究成果を中間報告書としてとりまとめたものであります。

わが国では経済・産業の国際化が進展し、製造業の国際分業の活発化や製品輸入の増加に伴って、ドア・ツー・ドアの輸送に優れたコンテナ輸送が外航定期航路の主役となっています。

九州・山口地域においても、自動車産業をはじめとする企業立地の進展や急速な経済成長を遂げつつあるアジアへ近接していることなどから、国際コンテナ貨物が急増しています。しかし、その約4割が神戸港など当地域以外の港湾で輸出入されており、当地域の港湾物流機能が利用者のニーズに十分対応できていないことなどがその要因として考えられます。

また、当地域とは至近にある釜山港をはじめ、アジア諸港湾ではコンテナ取扱量が急増しており、いわゆる国際ハブ港湾間の競争が激しくなっています。こうした中で、当地域の港湾が多様化する国際物流ニーズに応えていくためには、国内外の諸港湾との関係を見据えた上で、港湾施設などのハード面及び荷役、保管、流通加工、情報等のソフト面における港湾物流機能の充実を図っていく必要があります。

こうしたことから、本年度はまず、当地域の港湾物流機能の充実に関して、より具体的な検討を行うため、当地域のコンテナ貨物輸送において中核的な役割を果たしている関門港をモデル港湾として選定し、港湾の利用者となる荷主及び船社からの評価も踏まえて、その港湾物流機能の特性を整理しました。さらに、荷主からみた利用港湾の選択要件及び船社からみた寄港地の選択要件を把握し、関門港に求められる港湾物流機能の要件を抽出しました。

次年度は国内外の先進港湾における港湾物流機能充実の方策を調査した上で、関門港における港湾物流機能の強化に向けた具体的な方策を検討し、さらにこれを敷衍させて当地域における港湾物流機能の充実のための基本的方向をとりまとめていくこととしております。

この報告書が関係者の方々にいささかなりともご参考になれば幸いに存じます。

おわりになりましたが、本調査研究をとりまとめるにあたって終始ご指導、ご協力を頂きました山口大学谷光太郎教授はじめ委員各位、関係官公庁並びに調査にご協力頂きました関係の方々に、改めて御礼申し上げます。

平成8年3月

財団法人 九州海運振興センター
会長 邑本 義一

『九州・山口の港湾における物流機能の充実に関する調査研究』

委 員 名 簿

(順不同 敬称略)

委員長	谷 光 太 郎	山口大学経済学部教授	
委員	川 本 忠 雄	下関市立大学経済学部教授	
”	神 原 忠 義 (上 條 隆 司)	門司税関調査保税部長	
”	岩 瀧 清 治	第四港湾建設局地域整備調整官	
”	黒 田 省 司	㈱九州・山口経済連合会調査部長	
”	村 瀬 直 幸	日本開発銀行福岡支店次長	
”	船 越 寛 三	三井物産㈱九州支社運輸部長	
”	青 木 良 憲 (南 昇)	日本郵船㈱九州支店長	
”	村 形 義 明 (山 田 裕 敏)	大阪商船三井船舶㈱九州・門司支店長	
”	向 井 宏 道	日本通運㈱門司港支店長	
”	藤 岡 勲	山九㈱北九州支店長	
”	野 畑 昭 二	門司港運㈱代表取締役社長	
”	邑 本 義 男	北九州運輸㈱代表取締役会長	
”	米 田 英 治	下関海陸運送㈱代表取締役社長	
”	見 島 正 徳	関光汽船㈱代表取締役専務	
”	横 田 重 雄 (神 原 貞 臣)	日本貨物鉄道㈱九州支社長	
”	小 田 勝 也	北九州市港湾局企画開発部長	
”	北 澤 壯 介	下関市港湾局長	
”	大 黒 伊 勢 夫	九州運輸局企画部長	
”	花 田 陽 祐	” 運航部長	
幹 事	坂 本 秀 司	北九州市港湾局企画開発部計画課長	
”	神 崎 哲 朗	” 港営部振興課長	
”	蛭 子 博 智	下関市港湾局次長	
”	福 島 満 哉	九州運輸局企画部貨物流通企画課長	
”	澤 永 鎮 康	” 運航部港運課長	
”	甲 斐 光 利	” ” 倉庫課長	
集計解析	泉 裕 喜	㈱三和総合研究所研究開発第1部主任研究員	
”	原 田 昌 彦	” ” 研究員	
”	安 井 緒 抄 美	” ” 研究員	
事務局	吉 村 悦 男	㈱九州海運振興センター調査役	() は前任者

【目 次】

序 章 調査の概要	
1. 調査の背景と目的	1
2. 調査内容	3
3. 調査方法	6
4. 調査のフロー	8
第1章 九州・山口の港湾における物流実態	
1. 貨物の流動実態	9
2. 港湾物流機能の現況	25
3. モデル港湾の選定－関門港－	31
第2章 関門港における港湾物流機能の特性	
1. 関門港の周辺環境	33
2. 港湾物流事業者等の実態	37
3. 港湾物流サービスの現状	39
4. 荷主からみた関門港の港湾物流機能の評価	53
5. 船社からみた関門港の港湾物流機能の評価	63
6. 関門港における港湾物流機能の特性と問題点	67
第3章 荷主、船社からみた利用港湾及び寄港地の選択要件	
1. 荷主からみた利用港湾の選択要件	71
2. 船社からみた寄港地の選択要件	79
第4章 関門港に求められる港湾物流機能の要件	
1. 貨物需要の将来動向と港湾物流機能の整備動向	85
2. 関門港の目指すべき方向	92
3. 関門港に求められる港湾物流機能の要件	98
4. 今後の検討課題	100
資 料 編	

詳細は当センターへお問合せ下さい

(財)九州運輸振興センター

電 話 : 092-451-0469

e-mail : info@kyushu-transport.or.jp